

# AZ-COMレポート

第46期 中間報告書 2018年4月1日▶2018年9月30日



株式会社 丸和運輸機関

証券コード:9090

## 成長市場に経営資源を投入、中期経営計画の仕上げに努めます。

株主の皆様には、平素より格別のご支援・ご鞭撻を賜り、厚く御礼申し上げます。当社第46期第2四半期連結累計期間（平成30年4月1日～平成30年9月30日）における経営成績がまとまりましたので、ここにご報告申し上げます。

当期は、ラストワンマイルにおける独自のプラットフォームを構築するため、個人事業主「MQA (Momotaro・Quick Ace)」の開業支援活動を積極的に推進するとともに、物流事業の基盤強化に向けて食品スーパーマーケットの低温食品物流の営業活動を一層強化いたしました。また、継続した現場改善と日次決算マネジメントの徹底による経営基盤の強化に努めました。さらに、新卒社員の積極的な採用活動を行うとともに、「AZ・COM丸和・支援ネットワーク」のサービスメニューの拡充や会員の拡大を図り、安全・安心・安定した物流基盤の構築に取り組みました。この結果、前年同期比で、売上高は増収、営業利益・経常利益・純利益ともに増益と、増収増益を果たしました。

今後とも、株主の皆様にご満足いただける経営に努めてまいります。また、当事業年度は中期経営計画の最終年度であり、その仕上げに尽力いたします。何卒、変わらぬご支援のほど、よろしく御願申し上げます。

代表取締役社長 和佐見 謙



## トップインタビュー

### 成長を絶対条件として誠実な経営を。

当第2四半期の経営成績は、売上高408億7,000万円(前年同四半期比14.0%増)、営業利益26億2,300万円(同44.5%増)、経常利益27億7,500万円(同43.3%増)、純利益19億4,100万円(同45.3%増)の増収増益となりました。今後とも、成長を絶対条件として、誠実な経営に取り組んでまいります。

### 決算のポイント

売上高 **408** 億円  
(前期比14.0%増)

営業利益 **26** 億円  
(前期比44.5%増)

配当金  
第2四半期 **18.20** 円  
期末(予想) 18.20円

【トップインタビュー】次ページへ続きます →

### Q 当第2四半期の経営環境や決算のポイント等について教えてください。

厳しい経営環境の中でもチャンスを見極め、選択と集中で経営資源をシフトさせています。

経営環境は、貿易摩擦のリスク、大規模自然災害の影響、深刻化する人手不足、コスト上昇など、厳しい状況であることは間違いありません。しかし、その厳しい経営環境の中でも十分に成長のチャンスがあるとっております。時代、時流、時中において、今まさにスポットライトが当たっている時を見極め、選択と集中で経営資源をシフトできれば成長のチャンスは大いにあります。

では今、何にスポットライトが当たっているかという点、それはEC(エレクトロニックコマース)です。EC市場は拡大し続け、しかも非常に高い成長を遂げています。日本の既存小売業の店舗の成長率はだいたい1~2%です。ところが、EC市場は約10%の成長率となっております。ただ、その高い成長によって販売が増加すれば増加するほど、困る問題が出てきます。それは、販売に対して、デリバリー(配達)が人手不足で追いつかないのです。

そこで私たちは、「ECラストワンマイル当日お届けサービス」事業を担う個人事業主「MQA(Momotaro・Quick Ace)」の皆さんの開業を支援するという戦略を推進しています。結果的に、EC物流の売上高は前年度の2倍に近づいています。100%の成長率です。これは大変なことです。ただし、1本足の事業では、風が吹いたら倒れてしまいます。3本くらいは必要です。EC物流だけではなく、低温食品物流や医薬・医療物流にも力を入れ、低温食品物流では優良な食品SM(スーパーマーケット)の経営利益支援を全国的に進めています。社会が高齢化していく中で、医薬・医療物流の需要も間違いなく増えていくでしょう。八咫鳥(やがらす)のようには足が3本あれば、どこから風が吹いても大丈夫です。

### Q 中期経営計画の進捗状況と達成に向けた取り組みを教えてください。

事業強化が寄与、売上高は計画を上回る見込みで847億9,000万円を計画しています。

当事業年度は、「低温食品物流への経営資源の集中投資」「拡大し続けるEC市場への対応」「安全・安心・安定した物流基盤の構築」の3つを成長戦略とする中期経営計画の最終年度であり、「ECラストワンマイル当日お届けサービス」事業の強化、「AZ-COM 7P」(アズコム セブン・パフォーマンス・ロジスティクス / アつの経営支援機能を付加したサードパーティ・ロジスティクス)戦略に基づいた物流改革の提案による新規顧客の開拓に取り組む。新たな物流センターをオープンしました。また、「安全・安心・安定した物流基盤の構築」では、パートナー企業と連携する「AZ-COM丸和・支援ネットワーク」による物流基盤(プラットフォーム)の拡大を図り、会員企業が9月に1,000社を突破しました。

中期経営計画では、2019年3月期の計画は売上高810億円、経常利益65億円が発表数値でしたが、中期経営計画作成時には見込んでいない「ECラストワンマイル当日お届けサービス」事業が2017年6月6日より開始となっております。

これらも既存のお客様の維持と深耕、成長するお客様の開拓にしっかりと努め、お客様に喜んでいただける質の高いサービスを提供し続け、業績達成に向けて、鋭意努力いたします。

### Q 新しく開設した物流センターの位置付けや有事の際の対応について。

お客様の成長戦略を支援するロジスティクスセンターとして整備、組織力の強化を考えています。

昨年の6月から今年9月末までの期間で、「ECラストワンマイル当日お届けサービス」専用の配送センターを東京を中心に24ヵ所稼働させました。今後も積極的に展開し、2021年3月までに、都内23区200ヵ所をはじめ、各地に整備していく計画です。

仙台市にオープンした「仙台長町センター」は、食品SM向けの低温食品物流センターです。お客様の成長戦略を支援できるセンターとして、商品の鮮度維持や出荷作業の効率化を図り、さらなる配送の効率化、コスト削減を検討しています。

また、業界では人手不足が深刻化する中、仙台長町センターでは計画以上の人が採用面接に来ていただき、計画した約3倍の人に就労を希望してもらいました。これは、センター内に保育所を誘致したり、障がいを持った方が働きやすい環境を整備した結果です。

「人がいない!」と言って、諦めたら終わりです。どうやったら人が集まるか、我が社に来ていただけるかを考えて、働きやすい環境を整備しなければなりません。今後都内では、EC物流専用の配送センターとして、1階がターミナルで、上階に寮を併設した配送センターの建設も計画しています。人が集まって来る企業にしなければ、人手不足は解決できません。

有事の際の対応については、北海道胆振東部地震の後、救援物資の配送に取り組んだ経験をもとに、仕事を通じてもっと力を発揮できる組織づくりを考えています。それが輪配に携わっている我々の使命です。

### Q 株主還元状況など、株主の皆様へのメッセージをお願いします。

今まで以上に人財の確保と育成に努め、今後も配当性向30%以上を目指します。

株主の皆様に対しては、対話を心掛け、常に皆様と目線と同じにしてビジネスを展開していきたいと思っております。そして、経営責任として、確実な成長、株主の皆様への期待を裏切らない成長を固めてまいります。また、株主の皆様のご満足が私たちの喜びという考え方、心を持って、「投資魅力の高い会社」を目指してインテグリティ(誠実)という概念を持った経営に取り組んでまいります。私は、親から「人をだましてはいけない」「お世話になった方には、ちゃんとお返しをするんだよ」「礼儀正しくするんだよ」といった教えを受けてきました。企業経営もインテグリティが非常に重要であり、そのような経営に取り組むことが持続的な発展につながります。

今年是新入社員195名が入社しました。2019年4月入社は、300名を確保しようと努力しています。そういう若い人たちの力をもって「ECラストワンマイル当日お届けサービス」事業に取り組んでまいります。また、「AZ-COM丸和・支援ネットワーク」の会員企業への力をいただき、宅配を担う車輛をどんどん集めています。将来的には1万台を集める計画です。

経営には物的投資と人的投資がありますが、最も大切なのは人的投資です。売上や利益に見合った人的投資を行うことにより、EC物流の新規配送センターや低温食品物流の新規物流センターの構築ができるわけです。人の成長なくして企業の成長はありません。今後は、今まで以上に人財の確保と育成に努めてまいります。配当性向は30%以上を目指します。これからの当社グループにご期待ください。

## 連結財務情報

■ 第2四半期 ■ 通期 ■ 通期予想 (単位:百万円)

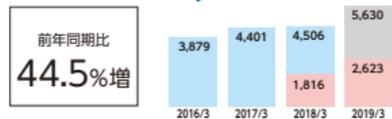
### 売上高

40,870 百万円



### 営業利益

2,623 百万円



### 経常利益

2,775 百万円

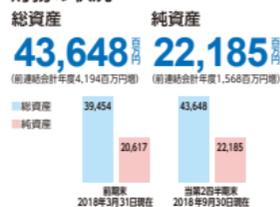


### 親会社株主に帰属する四半期純利益

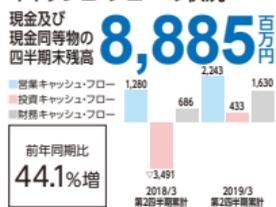
1,941 百万円



### 財務の状況



### キャッシュ・フローの状況



### 配当実績と予測



※1=株式分割考慮:当社は、2017年10月1日付で、普通株式1株につき2株の割合で株式分割を行いました。  
 「株式分割考慮」は当該株式分割が行われていたと仮定した場合の1株当たり配当金となります。  
 ● 配当性向 (単位:%)

## セグメント情報

### 物流事業

99.0%

40,461 百万円

その他 1.0% 409 百万円



## 物流事業 ドメイン別売上高構成比

### 常温その他物流

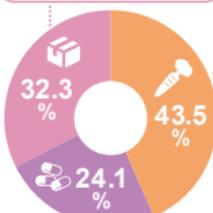
昨年6月より大手EC通販企業様に向けた「ECラストマイル当日お届けサービス」を展開しております。MQA(Momotarō-Quick Ace)という個人事業主のサービス・セルフマンを中心に、接客のプロとして常に「おもてなしの心」で、「速く・ていねい」に大切なお荷物をお届けいたします。EC市場の成長に伴い、今後ますます消費者から必要とされるサービスです。

### 食品物流

全国の優良な食品SM(スーパーマーケット)や生活協同組合様に向けて、お客様(荷主企業)に代わってアウトソーシング化の流れの中で物流部門を代行し、ロジスティクスサービスを提供しております。  
 食品SM向けの7つのサービスメニュー「A2-COM 7PL」は、農産品の産直や鮮度・温度管理の徹底により、「物流利益」だけでなく「商流利益」を創出し、お客様の経営利益支援に貢献いたします。

### 医薬・医療物流

大手ドラッグストア様をはじめとしたお客様(荷主企業)に、商品調達から物流センターの運営管理、店舗配送、EC販売対応などのワンストップサービスを提供しております。  
 3PL事業の先駆者としてのノウハウと最新鋭のロジスティクスシステムを用いる事で、安全・安心・安定したローコストの物流サービスを実現し、お客様が販売に専念できる体制を構築しております。



## 中期経営計画の進捗状況

### 連結業績目標

2017年3月期(第44期)から、2019年3月期(第46期)までの3ヶ年を対象

売上高(単位:百万円) ■ 第2四半期 ■ 通期  
 経常利益(単位:百万円) ■ 第2四半期 ■ 通期  
 ● ROE(単位:%)  
 ~ 目標(計画)(単位:百万円)



## 株式会社 東北丸和ロジスティクス

2018年7月、宮城県仙台市にて食品スーパーマーケット向けの低温食品物流センターとして仙台長町センターが稼働いたしました。

当センターは、冷蔵商品を仕分けるチルドエリアと、酒・雑貨等を扱うドライエリア、そして25台分のトラックパースを持ち、スーパーマーケットのロジスティクスセンターとしての機能を有しております。駅から徒歩3分の好立地に位置し、センター内に保育所を誘致するなど、従業員が働きやすい環境づくりに取り組んでおります。



仙台長町センター

## 時代に合わせた MARUWAグループの 取り組み

## 株式会社 アズコムデータセキュリティ

2018年9月、埼玉県秩父市にて文書保管センターの新棟建設が始まりました。こちらは同社6棟目のセキュリティセンターで、2019年8月竣工予定となっております。当センターでは重要文書の保管から廃棄まで、ドキュメント管理に関する総合的なサービスを提供いたします。



新棟完成イメージ図

## 株式会社 北海道丸和ロジスティクス

2018年9月6日に発生した北海道胆振東部地震において、震災後、北海道内のほぼ全域で電力が止まっている中、救援物資としてコンビニエンスストア向けに飲料水の配送を行いました。停電復旧後も道内全域の店舗では品薄状態となっており、出荷量は平常時の4倍近くになりましたが、全社の総力を結集して出荷・配送業務に対応しお客様からも高い評価をいただきました。

また、その他の物流センターにおいても平常時と同様に稼働するため配送車輛と燃料の確保を行い、お客様のご要望に沿った物流サービスを提供いたしました。



各物流センターの被災状況を逐一確認しながら業務を継続

## 担当者紹介

株式会社東北丸和ロジスティクス | 中川靖啓  
仙台長町センター | (2017年入社・25歳)

## 「安全最優先」で、物流品質の向上に努めます。

私は、スーパーマーケットU社様の物流センターで、配車担当として運行管理業務を行っており、「安全最優先」で定時・定配による物流品質の向上とお客様の物流コスト削減に取り組んでおります。

低温食品物流事業は、当社の成長戦略のひとつであり、私もその事業の一翼を担う存在として活躍できるよう、日々お客様の立場に立ち、相手の懸念・課題についてとことん考え、一つひとつ確実にクリアするよう心がけております。これからも「お客様第一義」を基本に、お客様へ「感動と満足」をご提供し続ける現場づくりに貢献してまいります。



# トピックス

～オンリーワン企業を目指した取り組み～

## 戦略的資本・業務提携について

当社は、2018年6月、トランコム株式会社と戦略的資本・業務提携に関する基本合意書を締結いたしました。

当社及びトランコムは双方の有する経営資源、ビジネスモデル、ネットワーク等を相互に活用することで、事業の補完関係のみならず経営環境の変化に対して、新たな市場の創出や付加価値の高いサービスの提供、海外での事業展開といった、持続的な成長に向けた取り組みが必要と考え、既存事業の領域を超えた独自性のある新しいポジションの構築を目指し、協業体制の検討を進めて行くことを確認いたしました。

強固な物流パートナー網を国内に有するトランコムと提携することにより、既存の物流事業強化はもちろん、両社が取り組んでいるパートナー企業に対するサービス向上を図ってまいります。



トランコム株式会社  
物流情報サービス事業（企業家乗）  
メカ・系IT事業  
インダストリアル（講義・派遣）サービス

株式会社丸和運輸機関  
小売業特化型物流事業  
ECシステム化/当日お届けサービス  
モーダルシフト（鉄道コンテナ輸送）

## 埼玉大学の寄付講座において、代表取締役社長 和佐見勝が講義

2018年6月、埼玉大学の寄付講座「実践ベンチャー論」において当社代表取締役社長の和佐見勝がゲストスピーカーとして講義を行いました。

この講座は、講義を通して魅力ある創業経営者との交流を図り、埼玉大学の学生に地元企業のすばらしさや将来性を理解してもらう事を目的とした、今年度より新しく開講された授業です。記念すべき第一回の授業で「わが社の経営戦略：人の成長なくして企業の成長なし」の講義を通して、当社の経営戦略や企業文化である「桃太郎文化」を語り、学生たちと活発な質疑応答を行いました。



## 北京交通大学と「物流創新研究所」を設立

2018年7月、北京交通大学と当社は「物流創新研究所」の設立式を開催いたしました。この取り組みは、中国の物流教育研究分野でトップレベルの同大学との戦略的な協力関係をさらに深く、中国、特に北京における低温食品物流についての共同研究を目的としております。

北京交通大学とは2011年から現在まで8年間の協力関係があり、当社の「留学金・助学金プログラム」の運営によりグローバル人材の育成に貢献してまいりました。



## 企業情報

### 会社概要 (2018年9月30日現在)

社名 株式会社丸和運輸機関  
本社所在地 〒342-0008 埼玉県川口市旭7番地1  
本社営業所 〒342-8505 埼玉県川口市あざひ桃太郎1-1-1  
東京本部 〒100-8235 東京都千代田区丸の内桃太郎  
(鉄館ビル本館5階)

設立 1973(昭和48)年8月  
資本金 2,656百万円  
事業内容 サードパーティ・ロジスティクス(3PL)事業等  
従業員数 連結10,300名(内パート7,500名)  
事業所 全国128拠点(全グループ含む)

埼玉、東京、神奈川、千葉、群馬、栃木、  
北海道、岩手、宮城、愛知、大阪、京都、福井、  
兵庫、滋賀、岡山、広島、高知、福岡 他

### 役員 (2018年6月28日現在)

代表取締役社長	和佐見 勝	取締役	岩崎 哲律
取締役	山本 輝明	取締役(社外)	廣瀬 權
取締役	藤田 勉	取締役(社外)	山川 征夫
取締役	河田 和美		
取締役	飯原 正浩		
取締役	小倉 友紀	常勤監査役	田中 茂
取締役	橋本 英雄	監査役(社外)	藤原 俊彦
取締役	田中 博	監査役(社外)	岩崎 明

### 株式の状況 (2018年9月30日現在)

発行済株式総数 32,131,280株  
株主数 4,048名

### 大株主の状況

株主名	所有持株数(千株)	持株比率(%)
株式会社WASAMI	10,800	33.61
和佐見 勝	8,272	25.75
日本ラスティサービス信託銀行株式会社(信託口)	1,597	4.97
株式会社マツモトキヨシホールディングス	1,026	3.19
丸和運輸機関社員持株会	952	2.96
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	645	2.01
トーヨーカネツリソリューションズ株式会社	544	1.69
STATE STREET CLIENT OWN BUS ACCOUNT OM 02	448	1.40
株式会社ダスキン	400	1.24
株式会社埼玉りそな銀行	321	1.00

### 所有者別株式分布状況



## 野村IR資産運用フェア2019【新春】に出展します! (入場無料)

来年1月に開催される野村証券株式会社共催「野村IR資産運用フェア2019【新春】」に出展いたします。

この機会に少しでも多くの皆様へ当社のご理解を深めていただければと考えております。

- 開催日時 / 2019年1月11日(金)～12日(土) 10:00～17:00
- 会社説明会(プレゼンテーション) / 2019年1月11日(金) 13:00～13:30
- 当社展示ブース/A31
- 場所 / 東京国際フォーラム ホールE 地下2階展示場 東京都千代田区丸の内3-5-1 (有楽町駅より徒歩1分・東京駅より徒歩5分)



## IRカレンダー

第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期
4月 5月 6月	7月 8月 9月	10月 11月 12月	1月 2月 3月
決算発表 定時株主総会 AZ-COMLレポート(報告書)発行	第1四半期決算発表	第2四半期決算発表 AZ-COMLレポート(報告書)発行	第3四半期決算発表

## 株主メモ

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	毎年6月
株主権定基準日	毎年3月31日
剰余金の配当基準日	期末配当の基準日 毎年3月31日
配当基準日	中間配当の基準日 毎年9月30日 上記のほか、基準日を定めて剰余金の配当をすることができ ます。

1単元の株式数	100株
株主名簿管理人	みずほ信託銀行株式会社 ( <a href="https://www.mizuho-tb.co.jp">https://www.mizuho-tb.co.jp</a> ) 東京都中央区八重洲一丁目2番1号
事務取扱場所	みずほ信託銀行株式会社 本店証券代行部 東京都中央区八重洲一丁目2番1号
郵便物送付先	みずほ信託銀行株式会社 証券代行部 ( <a href="https://www.mizuho-tb.co.jp/daikou/index.html">https://www.mizuho-tb.co.jp/daikou/index.html</a> ) 〒168-8507 東京都杉並区和泉二丁目8番4号

電話照会先	0120-288-324(フリーダイヤル)
公告掲載方法	当社の公告方法は、電子公告としております。 ただし事故その他やむを得ない事由により電子公告をす ることができないときは、日本経済新聞に掲載しております。 当社の公告掲載URLは次のとおりです。 <a href="http://www.momotaro.co.jp/">http://www.momotaro.co.jp/</a>

各種お手続き のお取り扱いについて	1.株主様の住所変更その他各種お手続きにつきましては、 原則としてお取引先をされている証券会社等でのお取 扱となります。 2.特別口座の株式に関するお手続きにつきましては、みずほ 信託銀行でのお取り扱いとなります。
----------------------	---



株主郵便

AZ-COM  
MOMOTARO-3PL-SYSTEM

## 株式会社 丸和運輸機関

本社所在地：〒342-0008 埼玉県古川市旭7番地1  
本社営業所：〒342-8505 埼玉県古川市あさひ橋太部1-1-1 TEL 048-991-1000  
東京本部：〒100-8235 東京都千代田区丸の内橋本（鉄橋ビル本館5階）TEL 03-3212-1111

